

管財課



第一回定期会議議事録

+ SITTON, M. & CO. LTD.  
AND ENGINEERS +  
TOKYO  
JAPAN

## 目次(事務棟)

§1. 一般事項	P1
1-1 建物概要	
1-2 設計方針	
1-3 使用材料	
1-4 荷重及び外力等の諸仮定	P2
1-5 材料の許容応力度	P3
1-6 積造伏図・軸組図	P5
1-7 仮定荷重	P20
§2. スラブ・小梁の設計	P28
2-1 スラブの設計	
2-2 小梁の設計	P34
§3. 準備計算	P40
3-1 柱の軸方向力	
3-2 地震力の計算	P68
3-3 各階せん断力	P81
§4. 応力算定	P83
4-1 仮定期材の断面性能計算	
4-2 部材配置図	P148
4-3 INPUT. DATA	P195
4-4 水平時応力	P238
4-5 鉛直荷重時応力	P285
§5. 梁・柱の断面算定	P328
5-1 断面耐力表	
5-2 大梁断面算定	P331
5-3 柱断面算定	P347
5-4 せん断力の検討	P389
§6. 耐震壁の検討	P402
6-1 壁耐力の算定	

§7. 地下部の設計 P405

- 7-1 地下壁の設計
- 7-2 地下間柱の設計 P407
- 7-3 碇版の設計 P410
- 7-4 地中深の設計 P411

§8. 基礎の設計 P420

- 8-1 杭の設計
- 8-2 基礎用柱軸力表 P423
- 8-3 杭の水平抵抗の検討 P426
- 8-4 フーリングの設計 P442

§9. OUTPUT DATA NO (別冊)

- 10-1 各ルームバネ定数 OUTPUT DATA NO
- 10-2 地震時応力 NO
- 10-3 鉛直時応力 NO



## 1-4 荷重及び外力等の諸仮定

項目	諸 算 事 項
a. 地震力	弾性設計…ベースシャ-係数 ( $C_0 = 0.25$ )より震せん断力を算定する。 (S55.7/14政令第196号による改正建築基準法施行令第88条)
b. 地盤重	設計用速度圧 $q = q_0 \cdot \zeta_w \cdot L \cdot I$ 高さ $h = 0 \sim 10^m$ $q_0 = 120E$ $h = 10 \sim 30$ $120E + 8(h-10)$ $h = 30 \sim 230$ $120E + 160 + (h-30)(340 - 120E) / 100$  $\zeta_w = 0.85$ $E = 1.2$ $L = 0.9$ (左面長さ $20^m$ )
c. 雪荷重	最深積雪量 $30^m$
d. 地下水位	設計 GL-4.5 <sup>m</sup>
e. 土圧係数	$K_a = 0.5$

部 位	仕 上 げ
屋 根	アスファルト防水 コンクリート補工
外 壁	2丁掛 特焼タイル打込み
内 壁	モルタル下地 ビニール壁紙貼
一 般 床	コンクリートステップ直均シビニタイル貼